

通信小海

「死の恐れからの解放」

牧師 荒籾 実あらかもみ まこと

「死の恐れからの解放」
 どうして、人間は死を恐れるのでしょうか。聖書は、死を「罪の報酬である」と教えています。実は、死はもともと人間にあったものではないのです。最初の人間が神様の命令に背いた結果、背きの罪の罰として死ぬことが定められました。だれひとりとして死を免れることはできません。人間は、ただ死を恐れ、あるいはこの世の命に執着して生きなければならぬのでしようか。
 聖書には、「死のとげは罪」だとありますが、この「とげ」を「毒針」に置き換えると意味がもっと明確になります。

【今月のみことば】

「罪の報酬は死です。しかし神の賜物はキリスト・イエスにある永遠のいのちです。」
 ローマ 6章23節

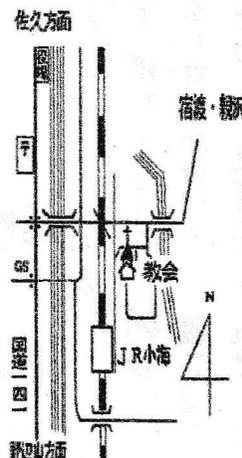
す。蜂には、毒針をもつものがいます。人間は、その毒針をもつ蜂を恐れます。しかし、その蜂から毒針を取り除いたらもう恐れる必要はありません。それは死も同じです。

キリストが私たちに代わって十字架に架かって下さったことにより、死のとげは罪はすでに取り除かれました。それは、キリストが全人類の罪の罰を代わりに受け、贖ってくださったからです。これにより、死は罰としての力を失ったのです。

さらに、神様はキリストを信じる者に永遠のいのちを与えてくださると約束してくださいました。「罪の報酬は死です。しかし神の賜物はキリスト・イエスにある永遠のいのちです。」この

日本同盟基督教団 小海キリスト教会
 南佐久郡小海町大字小海四三五―二七
 千三八四―一一〇二 住0267-887-69
 千振替 00530-0-616883

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜礼拝 朝 ①九時半〜十時半 ②十一時〜十二時 夕 二十時から二十二時

★毎月、第四日曜日は『歓迎礼拝』です。心よりお待ちしております。

★2月16日(火) 13時30分〜15時

『小海がん哲学カフェそと』開催

○後援 一般社団法人がん哲学外来

*初めての方も安心してお越しください。

*個人的な聖書勉強やご相談にも遠慮なくお越しください。

※当教会は、エホバの証人・統一教会ではありません。

「賜物」は、「プレゼント」と言い換える事ができます。誰も、プレゼントをもらう時に代金を払うことなどしません。感謝して、ただ頂くだけです。同じように、神様が与えてくださったキリストを感謝して受け取る時、その人に永遠のいのちが与えられるのです。それは、キリストが永遠のいのちそのものだからです。最初の人アダムが罪を犯した事により、全人類が永遠のいのちを失いました。しかし神様は、キリストを信じる事によって与えられる永遠のいのちへの回復の道を開いてくださいました。これが聖書の教える福音＝良い知らせです。もう死を恐れる必要はありません。死は罰でも呪いでもなく、天国の入口に変えられているからです。希望に満ちたこの福音を受け取る時、死の恐れから解放されたあなただけの新しい人生がスタートします。



連載



聖書を読んだサムライたち

もうひとつの幕末維新史

守部 喜雅【著】

第三章

自由民権運動の嵐の中で

④

その直寛が、キリスト教の洗礼を受けたのは一八八五（明治十八）年五月十五日のことでした。高知講義所で行われた洗礼式では、のちに衆議院議長となる片岡健吉も信仰告白をしています。

直寛にどんな心境の変化があったのでしょうか。初めは、フルベッキら宣教師との交流から始まりましたが、宣教師の立場から言えば、直寛の回心は最大目標の一つだったと考えられ

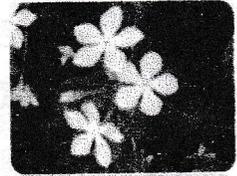
ます。それだけに、宣教師ナックスなどは、三日三晩にわたり、キリスト教の真髄を情熱を込めて直寛に語りました。

「神は、そのひとり子であるキリストをこの世に遣わされた。それは、キリストを救い主と信じる者が、滅びることなく永遠のいのちを得るためである」
たぶん、この聖書の真理をどう受け止めたらよいか直寛は逡巡したはずです。雨風の強い夜など、宣教師の家に行くのがいやになることもありましたが。しかし、外国人と約束しながら、それをすっぱかしたら日本人の信用にかかわると言うわけです。信義を重んじる武士の血が直寛には流れていました。その忍耐と努力が次第にキリストへと近づけて行ったのです。しかし、直寛は言います。「当時を回顧すれば、私が洗礼を受けたのはおかしなものであった。……」

《続く》

ニチニチソウ

日日草・日々想



鬼退治

立春の前日とされている節分の日が、今年には実に124年ぶりに2月2日だということと話題になりましたね。節分と言えば、豆まき。昔ながらの「鬼は外！福は内！」という掛け声や歌が聞こえてくる季節です。

豆まきの由来や意味は諸説あるようですが、悪いもの(鬼)を追い払い、良いもの(福)を呼び込むため、健康で幸せに過ごせるようにとの願いが込められていることは、よく知られているところだと思います。昔から目に見えない恐ろしいこと、病気や飢餓、災害などは鬼の仕業とされ、日本の昔話にもたくさん登場しました。鬼退治と言うと

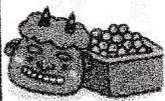
つい絵本に出てくる赤鬼や青鬼などの姿を思い浮かべてしまえますが、見えないう悪いものを鬼と呼び、心の中に入っている自分の中にいる悪い鬼、なきむし鬼、おこりんぼ鬼、わがまま鬼、よくばり鬼……そんな鬼を追い出すという発想に、なるほど、人はみな自分の中に鬼が居るといって自覚を持って生き、かつその鬼を退治したいと願っているのだなあと改めて納得したりもしました。

子どもから大人まで、空前の人気を誇る「鬼滅の刃」。鬼に家族を奪われた主人公の少年が、妹を人間に戻すため、鬼を滅ぼして人々を守るために戦いに出ます。そこに登場する鬼は元々人間で、人生に何らかの不安や不満を蓄積させ、鬼になると己の中にもともとあつた負の心が増大し、攻撃性や憎しみに支配されてしまう姿が描かれます。「死闘の果てでも、祈りを。失意の底でも、感謝を。絶望の淵でも、笑顔を。憎悪の先にも、慈悲を。残酷な世界でも、愛情を。非情な結末にも、救済を。重ねた罪にも、抱擁を。これは、日本一慈悲しい鬼退治。」

という作品のキャッチコピーに、人気と魅力の鍵があるように思えます。

「慈(やさ)しい鬼退治」を人間の罪を赦すことと考えるなら、それはまさにイエス様がなさったことだと言えます。聖い義なる神であるイエス様は、罪と悪を憎まれますが、人間を愛して下さるお方です。罪そのものを厳しく罰せられ、罪の束縛や苦しみから私たちを解放し、傷ついた私たちを癒し、慰め、愛で包んで希望の中を歩ませてくださる慈しみ深い救い主です。有名な讃美歌「慈しみ深き」では「慈しみ深き 友なるイエスは 罪、咎、憂いを取り去りたもう 我らの弱きを知りて憐れむ」と歌われます。

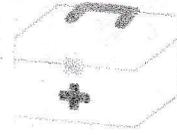
悪いところを見ては悩み、自分を変えたい、変わりたいと願っても、そこから抜け出しきれない私たちに救いの手を差し伸べ、日ごとに新しくしてくださるイエス様は、一年に一度の豆まきでは退治しきれない鬼に打ち勝つ力を与えて下さるのです。



暮らしの
くすりばい

《今月の処方箋》

◆冬こそフットケア◆



2月は「全国生活習慣病予防月間」とされ、中でも2月10日は「フットケア」の日でもあります。

フットケアは糖尿病患者・高齢者などのQOLを維持・向上させるために大変重要です。末梢動脈疾患PAD（動脈が狭くなったり、つまったりして、血流が悪くなった状態）は、加齢・喫煙・糖尿病などに起因して、手・足・腹部内臓血管に動脈硬化を起こす病気で、足先に十分な血液が届かず血液不足になることによる足病変は、冷感、しびれ、色の変化（蒼白）、安静時の痛みなどの症状があり、足や下肢の血流が悪くなることで皮膚が硬くなったり、傷の治りが悪

くなるため潰瘍ができたり、さまざまな感染症を起こしやすく、足の潰瘍・壊死から重症化すると足切断に至る危険性があります。足病変は早期発見・早期治療が必要であり、寒い冬にはとりわけ注意が必要で、皮膚の乾燥やひび割れ、寒さや運動不足から血流が悪くなりやすいことを意識して、日頃のケアや足の状態のチェックなど、自分で異変に気付けるよう予防に努めることが大切です。

冬場のフットケアのポイントは、

- 毎日足を丁寧に洗う
- 湿気や汗で足が蒸れたりしたままにせず、きちんと洗って水分をとる
- 保湿クリームなどで保湿する
- 靴の中に入れて貼り付けるカイロによる低温やけどに気をつける
- 足に合った靴をはく
- 綿や吸水速乾性の素材、厚手の靴下を選ぶ

などです。『2本の足は二人の医者』という格言もありますが、いつも全身を支えてくれている足、よく動かしつつ丁寧にケアしていきたいですね。



生活困窮者支援

山谷（やま）農場

支援物資、お寄せください

年が明けても、なかなか明るいニュースを聞くことができません。依然、コロナ・ショックによる影響で、生活支援が必要な方々に提供するお米の需要が増加しており、物資、郵送費共に必要が増えていきます。お米（2018年以降うるち玄米）、海苔、未使用切手・ハガキをどうぞお寄せください。

〈連絡先〉藤田 寛

☎ 090-1436-6334

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp



〈物資送付先〉小海キリスト教会、または、南牧村社協へ。〒384-1302 南牧村大字海ノ口966-15 南牧村社会福祉協議会 会気付 山谷農場事務局（藤田）

カンパ：〒振替〇〇二四〇四一五三七九六

☆活動の近況などは、山谷農場フェイスブックをご覧ください。